

一般市民の参加の道閉ざし 五市町村任意合併協議会発足

十月十六日、上越市、名立町、三和村、牧村、清里村による任意の合併協議会が発足しました。県内4番目といわれています。

動きと実態を見てみました。

任意協議会とは？

任意協議会とは、市町村合併にあたって法律で設置を義務付けられている法定協議会の前段に設けられる協議会をさします。任意協議会で合併に必要な協議をすべて行い、法定協はセレモニーだけというのが実態です。

「住民の意思を尊重」と言いながら、一般市民は参加できません

どこの議会でも市町村合併の質問に対し行政側は、「住民の意思を尊重します」と答弁します。しかし、法定協はもちろん任意協でも住民の参加は保障されていません。

今度発足した任意協も、市長、副市長、議長、商工会議所、町内会長代表などで構成されます。杉本敏宏議員は、9月議会の総務常任委員会で、「一般市民も公募で加えるべきだ」と提起しました。

行政が考えている「住民の意思尊重」というのは、せいぜい「アンケートに答える」程度のことです。

実際は、課長級などの実務者会議で進められます

実際の作業は、各自治体から派遣された課長級の会議、資料の整理や調整を行う係長級の実務者会議で進められます。

7回ほど開かれるという協議会には、この実務者会議などで調整された資料が提出され、協議会はその承認するだけです。協議会の委員は、実務者会議などに参加することもできません。

まったくの行政主導が進められるのです。

合併に慎重な意見は、はじめから考慮されません

合併のための意思決定を主な任務とする任意協議会の構成と運営の仕組みは、はじめから合併に慎重な意見の入る余地はなく、合併に向けての輿論よろん「世論づくりの場」といえます。

任意協の発足で、合併が一気に進むことが懸念されます。私たちの住む地域をどうしていくのか、まちづくりの原点でもあります。行政のあり方も含めて、みんなで考えて見ましょう。

上越市長選挙について

2001年10月13日
日本共産党上越地区委員会

10月28日投票の上越市長選挙について、日本共産党上越地区委員会は、12日に開いた上越市内の党支部長会議において、次の決定をしました。

1. 候補は擁立しない。

日本共産党上越地区委員会では、今市長選挙にあたり、公認候補の擁立を含む候補の擁立に向けて協議・調整を行ってきました。しかし残念ながら、ふさわしい候補者の擁立に至らず、時間的な要因もあって、候補は擁立しないこととしました。

2. 現在立候補を表明しているどの候補も推薦又は支持しない。

現在3人が立候補の意思表示をしていますが、推薦・支持すべき対象ではないということです。

現宮越馨市長については、わが党はこれまで上越市議会において厳しく対決してきました。Jプランなどに示された開発最優先の市政を支持するわけには行きません。

元自民党県議の木浦正幸氏については、自民党の推薦を受けている上に、わが党が県政の場で対決している平山県知事の支援を受け、自民党県政そのものである「県との太いパイプ」を掲げております。

塚田徹氏は、元自民党の代議士であり、自民党政治の枠組みから抜け出た形跡は見られません。

以上

政府交渉をします 要望は市委員会へ

日本共産党新潟県委員会では、恒例の政府交渉を11月12日～13日に行います。そのための要望項目を10月25日までに取りまとめます。

各町内には国・県・市などへの要望があると思います。お気づきの点がありましたら、気軽に日本共産党上越市委員会に声をかけてください。

上越民報

2001年10月21日 193
日本共産党上越市委員会
日本共産党上越市議会議員団
上越市五智1丁目2番12号
TEL 43-1890 FAX 43-1875
編集 杉本敏宏 発行 樋口良子
TEL 24-3787 FAX 24-3832 TEL 44-6802 FAX 44-7004
http://web.joetsu.ne.jp/~t-sugi/

